

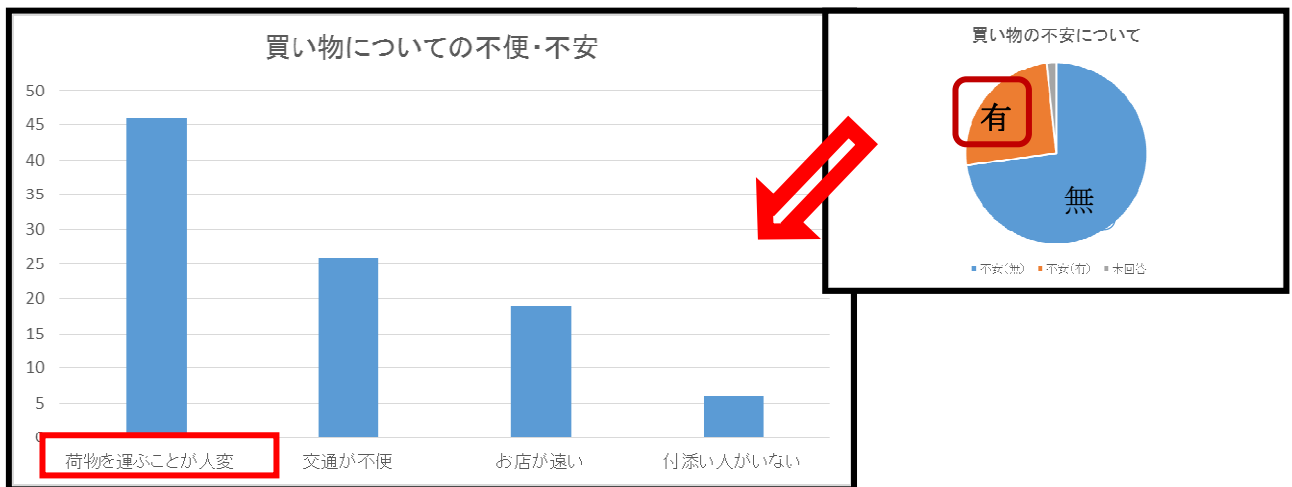
## 田中町住宅モデル地区実態調査について

移送の課題やゴミだし支援に係る取り組み状況として、前回までの方向性は、「実態調査を行い具体的なニーズを探ること」であった。田中町住宅をモデル地区として、「高齢者生活実態調査」を実施した。

調査期間	6月20日（木）から7月10日（水）
調査対象	田中町住宅在住する65歳以上（6月1日時点）の方（645名）
有効回答数（有効回答率）	292名（45.2%）

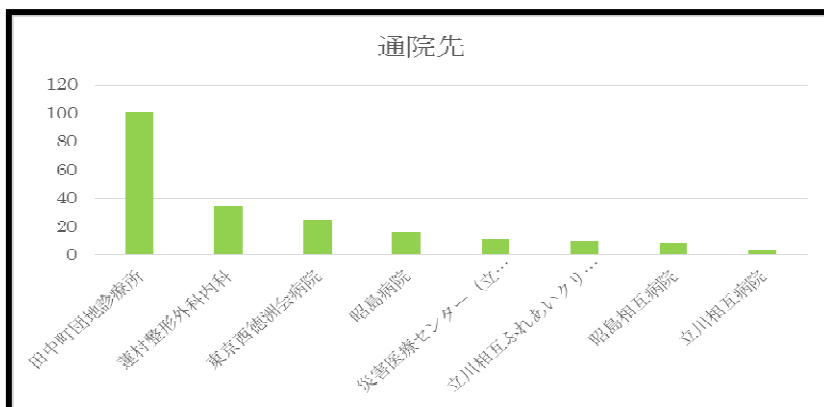
### 1. 調査結果（一部抜粋）

#### ①買い物について



買い物への満足度は86%と高い地区となっていた。しかし、買い物不安のある方の不安の要因は移動手段ではなく「荷物を運ぶこと」（62.2%）という結果が出た。

#### ②通院について



近距離の医療機関へ通院する傾向が高いが、通院先については持病との関連性が高く、住まいの場所と通院先医療機関との相関関係は見られなかった。

③ゴミだしについて

ア. 主にゴミだしをおこなっている方について (n=292)

担い手	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	総数	
自分	56	68	56	33	7	220	75.3%
						75.3%	
同居親族	15	22	16	7	1	61	20.9%
別居親族	0	0	0	1	1	2	0.7%
ヘルパー	0	0	0	1	0	1	0.3%
友人	0	0	0	0	0	0	0.0%
近所の人	0	0	0	0	0	0	0.0%
未回答	4	2	1	0	1	8	2.7%
総数	75	92	73	42	10	292	100.0%

イ. ゴミ出しで大変なこと（複数回答可） (n=290：未回答者2名)

担い手	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	総数
階段の昇降	13	17	16	11	3	60
	17.6%	18.5%	22.2%	26.2%	30.0%	20.7%
集積所が遠い	2	2	4	3	0	11
	23.0%	2.2%	5.6%	7.1%	0.0%	3.8%
重いゴミ出し	17	19	23	10	5	74
	23.0%	20.7%	31.9%	23.8%	50.0%	25.5%
分別	5	12	10	8	0	35
	6.8%	13.0%	13.9%	19.0%	0.0%	12.1%
特になし	47	58	35	19	4	163
	63.5%	63.0%	48.6%	45.2%	40.0%	56.2%
その他	0	2	6	1	0	9
	0.0%	2.2%	8.3%	2.4%	0.0%	3.1%
総数	74	92	72	42	10	290

古紙などの重たいゴミだしについて、困っている住民が74人いるなか、近隣住民同士での支援は行われて無い状況が分かった。

## 2. 調査報告と住民との意見交換会

10月5日（土）に開催し、参加者は住民44名と開催者側16名、計60名の意見交換会となった。

調査結果の報告後、テーマを設定しグループに分かれて意見交換会を実施した。

1. 調査結果より、田中町住宅では自治会活動など地域の基盤活動は行われているものの、住民同士の助け合い活動は確認できなかったことから、「ゴミだし」について住民と話し合いを行った。

### 3. 住民との意見交換会の結果（一部抜粋）

問 本日の報告・懇談会の感想について		
回答者数 計35名		
ア	とても有意義	11名
イ	有意義	20名
ウ	あまり有意義ではない	0名
エ	有意義ではない	0名
オ	意味が分からなかった	0名
カ	未回答	1名

問 助け合い活動の参加について		
回答者数 計35名		
ア	手伝える	6名
イ	内容・時間帯によって	14名
ウ	今は手伝えないが前向きに考えたい	5名
エ	手伝えることは難しい	5名
オ	未回答	5名

意見交換会で出た意見（一部抜粋）	
1	近隣住民には頼みにくいので、頼めるシステムがあると良い
2	他人には頼めないため、まずは顔見知りを増やしたい
3	ただで支援してもらっては気を遣うので、低額の料金制が良い

### 4. 今後の方向性

《移送課題について》

- ① 買い物については、移動手段よりも「購入した商品を運ぶこと」にニーズがあった。
- ② 通院に関しては、近距離の医療機関を受診する傾向はつかめたものの、通院先は持病との関連性が高く、住まいの場所と通院先医療機関との相関関係は見られなかった。つまり、田中町住宅からバスなど公共機関交通を出す支援だけではニーズに対応はできないことが分かった。

《ゴミだしについて》

ゴミだしについて困っている住民が相当数いるなか、近隣住民同士での支援は行われて無い状況が分かった。定期的な意見交換会を開くなど、互助の必要性についての住民意識を高める必要がある。また、意見交換会では「助け合い活動の仕組みを作ってほしい」といった意見が出たため、「支援者」となっていただけそうな住民と一緒に互助活動の仕組みを検討していく。